

(様式2)

令和 3 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200158		
法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会		
事業所名	高齢者総合ケアセンターこぶし園 グループホーム千秋(北ユニット)		
所在地	長岡市千秋2丁目221番地14		
自己評価作成日	令和3年9月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和3年10月27日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>長岡市千秋という長岡市赤十字病院や市内有数のショッピングセンターに徒歩で行ける距離に立地しています。施設から外に出ると、整備された歩道が続き、また東側には信濃川の土手が続いていて、散歩やジョギングする人たちの姿を見る事ができます。</p> <p>サポートセンター千秋という、グループホーム・地域密着型特養・ショートステイ・小規模多機能型居宅介護・デイホーム(認知症対応型通所介護)が併設した複合型施設であり、ご利用者の状況に合わせて、同じ建物内にてサービスを展開することが出来、認知症のある方においても通いのサービスから慣れてから入居される方も多数いらっしゃいます。</p> <p>加齢に伴い身体的に中重度になっても、グループホーム内にリフト浴、併設特養に臥床したまま入れる特殊浴槽もあり、ご家族への希望・医療的ニーズが合えば看取りへの対応も行なっています。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、長岡市の中心部に位置し、大型ショッピングモールや各種店舗、公共施設、総合病院などが隣接し、生活や交通における利便性に大変恵まれている。複合施設である建物では、地域密着型特養、小規模多機能型事業所、通所介護および当グループホームが運営されており、各事業所が一体となって地域の福祉を担っている。また同敷地内に隣接して障害者就労支援事業所があり、複合施設の清掃業務の委託を受けており、障害者の就労機会の提供も行なっている。</p> <p>近くに流れる信濃川沿いの土手には遊歩道が整備されており、越後山脈を望めるほどに眺望が良く、春には桜並木が、夏には大花火大会、秋には色とりどりの紅葉、冬には越後平野の雪原を堪能することができる。</p> <p>事業所の所属する法人は長年、地域の社会福祉のリーダー的な役割を担ってきており、法人の取り組みは全国的にもモデルケースとなって広く紹介されている。母体となる特別養護老人ホームは、時代のニーズを捉え小規模多機能型施設を展開し、特別養護老人ホームに入所していた高齢者を住み慣れた地域に帰すべく、拠点となる地域の各所にサポートセンター(複合施設)を設立していった経緯がある。</p> <p>事業所の職員は経験豊富な方が多く、ほとんどが介護福祉士であることから専門性に優れていることが分かる。利用者の重度化が進む中でも常に利用者本位の立場を崩さず、利用者の幸せを追求している。法人の基本理念である「自分が利用したい施設」を共有して実践につなげている。</p>
--

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念(自分や家族、友人が利用したいと思うサービス提供)やこぶし園の基本方針(その人の築き上げてきた暮らしを支えます)を共有し、GH内でも行動目標を定め、その実践につなげている。	法人の基本理念、母体施設の基本方針があり、事業所では毎年度、行動目標を掲げ、具体的な目標に添ったケアに取り組んでいる。年度末には職員個々に振り返りおよび目標の達成状況の確認を行ない、次年度の行動目標の立案につなげている。年度の中では随時話し合いを行ない、目標達成に向けての軌道修正を行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度コロナウイルス予防の観点から地域の行事やイベント等への参加はほとんど実施できなかった。ただ季節感を感じる外出(お花見・紅葉)や買い物を実施し地域へ出向くことはできた。	周辺が商業地帯であるため民家がほとんど無く、近隣住民との付き合いは難しい。そのため事業所が積極的に地域の防災訓練、合同敬老会、夏祭り等に出向いて交流を図ってきた。コロナ禍以前は事業所にダンスインストラクター、陶芸、生花などの先生を招き、本格的な講座を開催し、地域の方にも案内し、参加を頂いていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方へ事業所の活動や状況報告を行っている。また市内のオレンジカフェにて健康体操教室を実施した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルスの関係により全ての運営推進会議は文書でのやりとりのみであった。議事内容を貼り出したり、回覧し内容の周知、ミーティングでの伝達等から、サービス向上に繋がる取り組みを行なっている。	コロナ禍により現在は書面開催でのみ実施しているが、質疑応答のやり取りは活発に行われている。元々、利用者、家族の代表者も会議に参加しており、会議の内容については事業所内の掲示のほか、参加しない家族にも送付している。避難訓練について、有事を想定しあらかじめ当日の係を決めなくて実施してみようかとの意見を得て、実践につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村の担当者や地域包括支援センターの職員から出席していただき事業所の取り組みを報告している。(今年度はコロナウイルスの関係により文書でのやりとり)	運営推進会議の委員として行政の参加を得ている。また、市主催の研修会への参加、運営に関する質問や報告などは積極的に行なっている。市からの依頼により認知症予防の体操を公民館などに出向き、協働して啓発に取り組んでいる。	
6	(5)	2021/10/27 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の事故防止・身体拘束廃止委員会の中で各事業所の身体拘束の状況を確認している。センター内委員会やGHミーティングでも身体拘束の研修を行う予定。その知識と意識付けを行っている。GHの玄関は日中、夜間ともに施錠はしていない。センター全体の入り口に関しては夜間のみ防犯のため施錠している。	マニュアルの整備および定期的な研修を行ない、身体拘束のないケアの実践に努めている。やむを得ず人感センサーやセンサーマットを使用する時には、職員間での話し合いを繰り返し、利用者の状態に応じて使用が適切であるかどうか常に検討を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を基に伝達研修を行い職員間で現状のケアの7振り返りを行い、以降毎月のミーティングで不適切ケアの共通認識を行い意識付けをし、虐待防止に努めている。	マニュアルの整備および定期的な研修を行ない、高齢者虐待防止法についての学びを深めている。ミーティングの中で不適切ケアについての具体例を取り上げ、職員全体で考える機会を持つことで、虐待防止の意識付けを行なっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングの際に研修を行うなど学ぶ機会を得ている。また、成年後見制度を実際に利用されている方の定期的なカンファレンスなどを通じて話し合い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・計画作成担当者を中心に契約に関する説明を行っている。不安や疑問点はその都度各職員が受け、申し送り、素早く回答できるように連携している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の状態報告等で適宜ご家族へ担当職員中心に連絡をとるなかで、ご家族からの意向も確認とったり、「満足度アンケート」を配布し意見を求め、それらを職員間で情報共有し、改善点があれば早急に対応している。	居室担当が中心となり本人および家族からの意見や要望の聴き取りを行なっている。定期的実施している満足度調査も貴重な意見聴取の機会となっている。今まで不定期発行だった広報誌は、毎月作成し家族に送付するようにし、要望を引き出せるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議やGHミーティングの中で意見や提案を求め、組織運営に反映するよう努めている。またセンターの代表者や管理者との職員面談や職場連絡協議会（こぶし園全体としての職員意見の場）を通じて意見や提案ができる機会を設けている。	事業所全体のミーティングのほか、各ユニット毎にミーティングを実施するようになり、職員からの意見が活発に出されるようになった。ミーティングの進行役は職員全員に割り振るようになり、発言の機会確保に努めている。年度末には全職員が個々の振り返りを行ない、その結果を元に年度初めに管理者が個別面談を行ない、意見や要望の聴き取りを行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務課長・管理者との面談・職場連絡協議会の開催、衛生委員会にて各職員の勤務状況・体調把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園全体およびセンターで研修委員会を立ち上げ、各種研修を計画し、全職員が研修を受ける機会を確保している。各種委員会やGH間会議での独自の研修も行っている。また、GHミーティングでも月ごとのテーマに沿った研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの予防の関係上同業者との交流は無かったが、法人内の4つのGH間で情報交換をし合い、サービスの質の向上に努めていった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時や入居時にご本人の思いや気持ちを伺い、センター方式の一部を用いてご利用者の生活歴の把握に努め、自宅同様に安心した生活が送れるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居時にご本人の思いや気持ちを伺い、センター方式の一部を用いてご利用者の生活歴の把握に努め、自宅同様に安心した生活が送れるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞いたうえで、多職種との連携を通し、本来必要または、適切なサービスの提示をもち、本人、家族への選択肢の幅を持って頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況、意思、希望確認を行い家事行為等を共に家庭生活の延長と思える環境づくりを図っている。参加しやすい雰囲気構築に努め、職員と共に生活を送る日常の関係づくりを重視している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの予防の観点からほとんどご家族との面会ができなかったが、受診の付き添いをご協力して頂いたり、処方薬を届けてもらったり、日用品やお菓子を購入してきていただいたり、本人用携帯や電話での会話、また窓越しでの面会を実施してきた。遠方のご家族にはメール等で写真を送って、本人の状況を報告してきた。	入居後の家族の役割として医療機関への受診対応や個人物品の購入、季節に応じた衣類の入れ替えなどをお願いしている。家族との連絡をいつでも取れるように居室に電話線を入れている部屋もある。入居前から続けていた生け花を引き続き行えるように余暇に取り入れ、家族から花器や道具を持参してもらっている利用者もいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様一人ひとりの生活習慣を尊重し、これまでと変わらず交流が保てるように働きかけている。コロナの関係より馴染みの知人や家族の面会ではなく、電話等でのリモートでの会話が多かった。年間行事内においても個別外出を取り入れ、馴染みの場所へも出向く働きかけを行っている。	コロナ禍の現在でも、各利用者の行きたい場所を聴き取りドライブに出掛けることで生活の中に潤いを与えている。家族、親戚、友人、知人なども直接面会することは難しい状況ではあるが、窓越しに面会したり、リモートでのやり取りを進めながら、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者同士の関係性を把握できるよう努めている。一人ひとりが孤独感を感じないように、利用者同士が関わり合い、また、円滑なコミュニケーションを展開できるよう、職員が調整役となり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、他施設・他サービス・病院に移られた方については、移動先の相談員等に情報提供を行ない、これまでと同様な生活を送れるようサポートしている。必要時には、家族の相談に応じ、不安の軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、ご利用者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。ご家族からも情報を聞き、思いに沿えるよう努めている。時系列シートを用いご利用者の状態把握をしやすいように努めている。	居室担当職員が中心となり、本人の思いや意向の聴き取りを行なっている。意思表示が難しい方には、家族から代弁してもらったり、情報を元に推察している。入居前には家族から「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」のアセスメントシートを埋めてもらい、情報収集するとともに思いや意向の把握に努めている。	現在活用しているアセスメントシートによる思いや意向の抽出には限界を感じられている。事業所の特性に合ったアセスメントシートの使用を検討し導入することで、さらに利用者の思いや意向が反映されることを期待したい。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前事前訪問時の他に、定期的な担当者会議や面会を活用し、生活歴やライフスタイル、生活環境、サービス利用状況等の情報収集に努めている。	入居前には可能な限り自宅に訪問し、利用者のこれまでの生活環境の把握に努めている。また、「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」のアセスメントシートを家族から埋めてもらい情報収集を行なっている。本人、家族、ケアマネジャー、サービス事業者などの関係者からの聴き取りも行ない、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状には、ご本人からお話をお聞きしたり、面会時、ご家族からの情報、個別ケース記録、時系列シート等から総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの職種が日々の利用者様との関わりの中で気付いた点などを、ユニット別ミーティングや会話の中で情報共有し、徐々に具体化させ、居室担当を中心にケアプランに反映させている。	居室担当職員が中心となりアセスメントを実施し、計画作成者と共にケアプランの作成を行なっている。モニタリングは3ヶ月毎に実施するほか、支援経過記録の中で毎日の達成状況の評価を実施している。コロナ禍以前のサービス担当者会議は、本人、家族にも参加してもらっていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践及び結果を記録し、それらを次回のモニタリングやアセスメントの判断基準にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の要望、その時々状況に応じ外出や受診介助など柔軟に対応できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス予防の観点より地域資源を活用するには至らなかったが、運営推進会議より地域住民よりご意見や励ましの言葉を頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医への受診や訪問診療を基本としているが、状況に応じて専門医療機関や専門医選択の相談や支援を行っている。受診や訪問診療時には、担当職員が中心となり、必要な情報が主治医に伝わるようにしている。付き添いは家族が基本であるが、必要に応じ職員も同行している。	利用者が最期まで事業所で過ごせるようにこの方針により、看取りの際にも個別に往診を行なってくれる医療機関への受診を勧めている。受診対応は基本、家族にお願いしており、受診報告書により事業所での健康状態を医療機関に報告している。受診状況の確認は家族から口頭で聴き取るか、必要な場合は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している特別養護老人ホームの看護師が兼務で配置されており(夜間帯は拘束番として)、利用者の健康に関する報告・相談の連携がとれやすい。また、緊急時にも速やかに看護師の協力が得られる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については、ケースワーカーおよび看護師・栄養士も関わり支援している。入院期間中は、定期的に病院側に状態等を確認したり、現状把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応や考え方について説明を行っている。その際必要に応じて主治医や看護師からも説明を行い、また状態変化の都度、担当者会議で終末期への意向を確認している。訪問看護からの研修に参加し、チーム内の対応共有に努めている。	重度化に関する指針が明文化されており、入居時の説明および看取りの段階になった時には、関係者が同席のもと同意書とあわせて再度説明を行っている。事業所の方針の共有と職員の不安を軽減するために、看取りの研修会や定期的な話し合いを実施している。また、実際に事業所での看取りが行われた時には、自分たちのケアについて振り返りを行なっている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	GHだけでなくセンター全体としても急変時マニュアルを整備。夜間は特養・小規模・GHの職員にて必要時は協力体制をとっている。また、実際に起こった事例について事業所内で振り返りを行い、実践力を高めている。	急変や事故発生時の対応マニュアルが整備されており、シミュレーションをまじえた研修会も随時実施している。他の事業所で起きた急変や事故の発生事例をもとに振り返りを行ない有事に備えている。非常時には「高齢者ケアセンター千秋」全館に放送を流し情報共有を行なうとともに、いつでも応援に駆け付ける体制が整っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に定期的に避難訓練や防災研修を実施している。今年度は火災・地震(夜間)想定訓練を行ったり、水害の勉強会や発電機や補助散水栓の訓練も行っており非常時に備えている。	火災や地震のほか水害を想定した避難訓練を実施している。防災機器の取り扱いについて業者から指導を受ける防災教育も行なっている。コロナ禍以前は、運営推進会議に合わせ防災訓練を計画し、会議の委員にも訓練に参加してもらい意見をもらう取り組みも行なっていた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1対1での関わりを基本とする中で、入浴・排泄面での介助はもちろんのこと、声掛けにおいても、内容によっては第三者へ伝わらぬよう音量等に配慮し、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。	各居室にトイレが設置されているためプライバシー確保の面では大変有効である。現在、利用者が全員女性であるため、同性介助の希望があれば対応できるようにお伝えしている。接遇に関する研修会に参加したり、権利擁護についての学びを動画配信サイト(YouTube)で視聴するなどの工夫を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃よりご利用者の表情やその時々様子に添って声掛けを行い、複数の選択肢を提案してなるべく希望に副った自己決定が出来るよう配慮を行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、起床時間就寝時間、食事や入浴、排泄等それぞれの場面でご本人の意思を確認しながら生活パターンを把握する事により、可能な限りご利用者の意向に合う支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問美容の方が来所しご本人の好みの長さにして頂いている。またご本人が着たい服を選んで着たりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者一人ひとりの能力に合わせ、果物を切ったり、食器洗いや拭きの作業、おしぼりたたみ、テーブル拭き等を行って頂いている。また、季節の食べ物に触れて頂けるように季節の果物を使ったゼリーと一緒に作ったり、午後にカフェを開き普段の茶話会とは違った雰囲気を出し、楽しみへ繋がる取り組みを行なっている。	食事は、「高齢者ケアセンター千秋」建物内の厨房で委託業者が調理している。バランスの取れたメニューと栄養が管理されたおいしい食事は利用者から大変喜ばれている。3ヶ月に1回程度は計画的に行事食を取り入れ、おでんやお寿司などを提供している。食事の盛り付け、食器の後片付けなどは利用者に協力してもらい、楽しい食事の一コマとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事を記録に残し、比較する事で些細な変化でも気づき、改善が必要な場合などは栄養士や看護師や医師に相談しその方の状態に合わせた支援を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、ご利用者への口腔ケアを勧めている。一人ひとりの口腔状態や有する能力に応じスポンジブラシやジェルを用い、口腔ケアサポートを実施している。また、義歯を夕食後に職員がお預かりし洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴え時のほか、コールボタンやセンサーを用い一人ひとりのパターンや習慣に応じ誘導してトイレでの排泄に繋がるように心がけており、オムツ内失禁を減らすように努めている。本人の負担の軽減にも繋がっている。	排泄に関してもしっかりとアセスメントを行ない、個々の排泄パターンを把握した中で対応している。居室にトイレが設置されていることも排泄の自立につながっている。失禁が多くなってきたからといってすぐにオムツ対応にするのではなく、その都度モニタリング、カンファレンスを行ない最善の方法で支援できるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じ、多目の水分提供、乳酸菌飲料の提供、体力に応じた運動、歩行、行事、家事への参加。便意がない方へのトイレへ行く習慣の働きかけによる自然排便への環境の整への配慮。看護師、主治医との連携を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にご本人の意思を確認し、意向に合わない場合は時間や曜日をずらして実施している。また、リフト浴・一般浴とその時の体調や身体の状態に合わせて入浴して頂いている。また菖蒲湯やゆず湯など季節に合わせた変わり湯を実施している。	基本は週2回の入浴となっているが、回数や入浴時間の希望があれば検討している。個浴のほか、リフト浴、特別養護老人ホームの特殊浴槽も利用できることから、重度化にも十分対応できる。バラやレモンのお風呂と題して香りや彩りを楽しんだりする企画も行ない、入浴が楽しくなるような工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、ご本人のその日の体調に合わせて休息して頂くよう心掛けています。また、昼夜逆転傾向の方には、日中の活動を働き掛けている。その雰囲気でも眠れるようナイトパーの開催にも試みている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケース上の受診記録、または薬の説明書にて処方薬の把握を行っている。主治医、センターの看護と連携し服薬の支援、症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	たたみ物や食事の準備、片付け、掃除などの軽作業を行い、ひとり一人の経験を活かせる場を提供している。毎月の行事や買物、散歩、個別での外出等通じて楽しみや気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に応じた外出(散歩・ドライブ)支援を行っている。普段行けないような場所では、年間行事として希望を聞きながら、ご利用者の昔馴染みの場所へドライブに向かう等支援している。	コロナ禍で外出機会は減ってはいるが、利用者個別の行きたい所を聴き取り、ドライブに行くなどの取り組みや、事業所近くの土手の遊歩道を散歩しながら季節ごとの花見を行ったりと、工夫しながら外出を楽しんでもらえるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が抱く金銭に対する想いを常に職員は意識し不安なく安心していただけるように、職員と買い物に行ったり、管理している所を実際に確認していただくなどしたり、利用者様の希望に合わせた買い物などの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は事務を経由し出すことができる。センター内に公衆電話が設置されており、いつでも利用できるようになっている。また、ご利用者によっては個人持ちの携帯電話での電話介助の依頼もあり、そのつど対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにソファや簡易ベッドを配置して、ゆっくり過ごせる環境になっている。また、利用者が好む音楽を流し、落ち着いた環境を作っている。浴室は家庭的な作りにし、自宅で入浴しているような環境を整えている。装飾品で季節感を出している。	利用者同士のトラブルを回避するために共用スペースのテーブル配置を工夫している。ソファや家具も利用者の動線に配慮した配置を心掛けています。事業所の玄関には季節の生花や仏壇を設置し、利用者の趣味や慣習が継続できるようにしている。美空ひばりのビデオを映し歌声が流れるとほとんどの方が落ちて聞いて聞き入っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内のテーブルや椅子の位置や向きを都度変えることでご利用者が独りで過ごせたり気の合う仲間同士で思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでの生活が継続できるように、好みの物や使い慣れた家具・食器等を使用して頂いている。また、その方の動線に応じ配置・工夫を行っている。	入居前の事前訪問で、本人の好みの物を持参してもらおう本人・家族にお願いしている。特別な制限はなく、仏壇や個人電話、冷蔵庫、趣味の手芸道具などが持ち込まれ、それぞれ居心地の良い居室が作られている。清掃も行き届いており、清潔感のある居室が整備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の出来る能力に応じて、声掛けや促しを行い、自立した生活が送れるように努めている。環境整備、安全を配慮し、手すりや滑り止めを設置している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				